

# 神奈川私学保連

# NEWS



神奈川私学保護者会連合会 会長 市川 昌 廣

(横浜学園中学高等学校後援会会長)

## こどもたちの日常の安全な生活領域

### — 新学期を迎えて —

卒業した小学校を数十年ぶりに訪ねたとき、「プールや小学校の校庭がこんなに狭かったなんて」と、驚いたことがありますか。プールや校舎や校庭がまるでおとぎ話に出てくる箱庭のように見えた瞬間です。

太平洋戦争が終結する昭和20年を挟んだ数年間、私は那須連峰が遙か彼方に見えるある町に疎開していました。

自宅からさほど遠くない小高い山の中腹にセメント工場の気味悪い廃屋があり、その山の麓には渦を巻いて流れる子どもが近寄れない危険な川がありました。そして、川から手前に連なる広大な田園地帯を横切る田んぼを埋め立てて造った砂利敷の旧軍用道路があり、時折砂ぼこりを巻きあげて行くトラックが見えましたが、小学校の低学年だった私はそこまで一人で行くことは決してありませんでした。当時それらの場所は私の日常の安全な生活領域ではなかったのです。

遙か彼方にそびえる那須連邦のように、私にとって遠く遠く感じられる別世界の領域でした。体が小さかったからなのか、生活体験があまりにも浅い時期だったからなのか判りません。しかし今思うと、子どもは自分の視界ではつきり

認識できる範囲に限って、本能的に安全な領域とするらしいのです。子どもは遠くの景色を見ていると、遠くを決して安全な場所だとは思っていないのです。

それに似た体験を描いている小説があります。芥川龍之介の初期の作品、短編小説「トロッコ」です。

8歳の少年は村はずれの工事現場の土砂運搬用トロッコを、一度は押してみたといいつも願っていました。ある日の夕方その願いがとうとう叶い、2人の作業員と一緒にトロッコを押すことになりました。トロッコはレールの上をゴロゴロ音を立てゆっくり動き始めました。やがて上り坂にさしかかると3人は力一杯押し続け、しばらくして下り坂になるとトロッコに飛び乗り、谷底に向かって勢よく下りました。少年は得意げになり、「いつまでも押していいい？」と作業員に尋ねました。作業員は「いいとも」といつてくれました。少年と2人の作業員は登りになるとトロッコを懸命に押し、下りになるとトロッコに飛び降り、それを繰り返しているうちに、いつの間にか少年が来たこともない深い山あいに入り込んでいたのです。

岩を切り崩したような奇妙な山を背

負って夕暮れの中にたたくむ一軒の藁屋根の茶店がありました。作業員たちは少年を残したまま店に入り、それからしばらくして出てくると、1人の作業員が新聞紙に包んだ駄菓子少年に渡してくれました。そして突然、「われはもう帰んな。おれたちは今日は向こう泊まりだから」というのです。「あんまり帰りが遅くなるとわれの家でも心配するぞら」。すでに夕闇が迫っていました。少年は今まで体験したこともない山あいの線路敷を、たつた1人で帰らなければならぬことに気づきました。少年はほとんど泣きそうになりましたが、泣いても仕方がないと思いつき、得体の知れない恐怖に追いかけるながら、無我夢中で「命さえ助かれば」と線路の側道を走り続けたのでした。そのうち作業員にもらった懐の菓子の包みが邪魔になり道ばたに投げ、板草履までも脱ぎ捨ててしまいました。

日はとつぷりと暮れていました。村はずれの電灯の明かりが見え、やっと家にとどり着いたとたん、少年は父や母の前で大声で泣き叫んだのでした。

昨今、首都圏直下型地震や東南海地震の発生確率についての報道が多くなりました。新学期を迎え、初めてバスや電車で通う小学1年生のお子さんたちや中高の新生の皆さんは、どんな思いでいるのでしょうか。まだ自分の日常の安全な生活領域になりきれない通学路の途中で、不意に地震にでも遭遇したら…、と思うとたまらないのです。

# 平成24年度 私学助成の概要

私学助成につきましては、県の教育における私立学校の果たしている役割や県内百十万人の児童・生徒の約二十五%に当たる二十七万人が在学していることを踏まえ、

- ① 教育条件の維持向上
  - ② 児童生徒の修学上の経済的負担の軽減
  - ③ 学校運営の健全性の向上
- の三つを柱に様々な助成を従来から行っています。平成二十四年度の概要は次のとおりです。

## 一 当初予算編成方針

経済環境・雇用情勢は、引き続き予断を許さない状況にあります。二十四年度当初予算の編成にあたっては、県民生活の安定確保を目指すとともに、県民のいのちを輝かせ、神奈川のマグネツト力を高めるために、県として新たな挑戦を行っていく年となるように取り組んだところです。

こうしたことを踏まえ、保護者の学費負担の軽減を図るため、私立高等学校等生徒学費補助について、年収約二百五十万円から約三百五十万円未満の世帯について、補助単価を増額し、支援の充実を図ります。

## 二 一般会計

本県の平成二十四年度一般会計当初予算は、一兆七千七百三十億六千二百万円、二十三年度当初予算に比べ、三十三億三千万円、〇・二%の減となっております。

## 三 私学振興費

私学振興費につきましては、六百十四億二千九

百五十三万二千円で、前年度に比べ、八億二千二百三十四万二千円、一・三%の増となっております。

### (一) 経常費補助

私立学校の経常的な経費に対する助成は、標準的運営方式と補助率を維持しておりますが、「少人数教育等きめ細かな学習指導の推進」の実施及び生徒数の増などの影響により、四百六十億二千四百九十八万円で、前年度に比べ、七億八千七百四十六万五千円、一・七%の増となっております。

校種別では、高等学校は、百九十二億八百九万円で、前年度に比べ、一・一%の増となっております。中等教育学校は、七億四百六万五千円で、前年度と同程度となっております。

中学校は、五十六億八千八百九万二千円で、前年度に比べ、〇・九%の減となっております。

小学校は、二十二億一千七百九十九万四千円で、前年度に比べ、〇・六%の減となっております。

### (二) 私立高等学校等就学支援事業・生徒学費補助

家庭の状況にかかわらず、全ての意志ある高校生等が安心して勉学に打ち込めるよう、高等学校等就学支援金及び学費補助により、家庭の教育費負担の軽減を図る事業で、予算額は、就学支援金と学費補助を合わせて、百二十四億一千二百六万四千円で、前年度に比べ、三・一%の増となっております。

なお、年収約二百五十万円から約三百五十万円未満の世帯について、補助単価を増額し、支援の充実を図ります。

### (三) 私立学校生徒学費緊急支援事業費

保護者の失職や倒産等により、家計が急変した児童・生徒の学費負担の影響を軽減するため、授業料を軽減した私立高等学校等に補助するもので、予算額は、三千八百六十五万五千円で、前年度と同程度となっております。

### (四) 被災幼児児童生徒就学支援補助金

東日本大震災により被災した幼児児童生徒の授

業料等免除措置を行った私立学校の設置者に対して補助するもので、予算額は、二千九百九十九万八千円となっております。

### (五) 私立学校施設耐震診断調査費補助

児童生徒等の安全確保と災害時の近隣住民の避難施設としての公共性を考慮して、耐震診断調査の促進を図られるよう学校施設の耐震診断調査費の一部に対し補助するもので、耐震診断の早期実施のため、予算額は、三千四百八十八万七千円で、前年度に比べ、四・五%の増となっております。

### (六) 私立学校教職員退職金制度補助金

私立学校教職員に対する退職手当金の給付財源の一部を補助し、教職員の福利厚生の実現を図るものです。予算額は、八億四千五百九十六万五千円で、前年度に比べ、〇・八%の増となっております。

### (七) 日本私立学校振興・共済事業団補助金

私立学校教職員の福利厚生の実現を図るため、私学共済の長期給付事業の一部に対し補助するものです。予算額は、五億九千四十七万円で、前年度に比べ、一・〇%の増となっております。

### (八) 私学団体助成費

私学保護者会連合会をはじめ私学団体が行っている「いじめ・暴力」関連研修並びに「薬物乱用防止研修」等に対し補助するものです。予算額は、総額で、六百二十万円となっております。

### (九) 公私立学校協調事業費

従来の公立、私立の枠組みにとらわれず、公教育を担う公私の高等学校が協調を深め、特色を生かしながら、共に向上できる環境づくりを行うための協調事業として、神奈川の高校展開催事業及び公私教員研修事業等を実施するものです。予算額は、百四十二万五千円となっております。

以上が平成二十四年度当初予算の主な内容です。今後とも、皆様の私学行政に対するご理解とご協力をよろしく願います。

## 平成24年度当初予算私学振興費の概要

学事振興課

事業名等	平成24年度 当初予算額	平成23年度 当初予算額	比較増減	前年度比	摘 要																				
[ ] は内数	千円	千円	千円	%																					
1 経常費補助	46,024,980	45,237,515	787,465	101.7	教育条件の維持向上、修学上の経済的負担の軽減及び学校経営の健全性の向上を図るため、私立学校の経常的な経費や特色ある教育への取組みに対し助成する。																				
(1) 高等学校 [教育改革推進費]	[ 19,208,090 132,850 ]	[ 18,813,503 131,350 ]	[ 394,587 1,500 ]	102.1																					
(2) 中等教育学校 [教育改革推進費]	[ 704,065 6,000 ]	[ 704,130 5,100 ]	[ △ 65 900 ]	100.0																					
(3) 中学校 [教育改革推進費]	[ 5,618,191 68,400 ]	[ 5,669,740 70,800 ]	[ △ 51,549 △ 2,400 ]	99.1																					
(4) 小学校 [教育改革推進費]	[ 2,217,994 32,100 ]	[ 2,232,188 32,100 ]	[ △ 14,194 0 ]	99.4																					
(5) 特別支援学校	547,330	511,570	35,760	107.0																					
(6) 幼稚園 [預かり保育推進費] [地域開放推進費]	[ 16,361,814 639,300 ] [ 125,000 ]	[ 15,946,117 574,850 ] [ 118,000 ]	[ 415,697 64,450 ] [ 7,000 ]	102.6																					
(7) 専修・各種学校	1,367,496	1,360,267	7,229	100.5																					
2 私立幼稚園特別 支援教育費補助	1,241,856	1,146,208	95,648	108.3	障害のある幼児と共に学び、共に育つ保育を推進するため、障害のある幼児を受け入れる幼稚園に対し助成する。 ○補助対象園児数の増1,715←1,589人 (126人増)																				
3 高等学校等就学 支援事業費	9,417,968	9,098,152	319,816	103.5	家庭の状況にかかわらず、全ての意志ある高校生等が安心して勉学に打ち込めるよう、高等学校等就学支援金及び生徒学費補助により、家庭の教育費負担の軽減を図る。																				
4 私立高等学校等 生徒学費補助	2,992,296	2,940,315	51,981	101.8	<div style="text-align: right;">(単位:円)</div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分 (年収は4人世帯目安)</th> <th colspan="2">支援額</th> </tr> <tr> <th>合 計</th> <th>就学支援 学費補助</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生活保護世帯</td> <td>420,000</td> <td>237,600</td> </tr> <tr> <td>市町村民税所得割非課税世帯 (年収約250万円未満世帯)</td> <td>420,000</td> <td>237,600</td> </tr> <tr> <td>年収約250万円から 年収約350万円未満世帯</td> <td>283,800</td> <td>178,200</td> </tr> <tr> <td>年収約350万円から 年収約500万円未満世帯</td> <td>214,800</td> <td>118,800</td> </tr> <tr> <td>年収約500万円から 年収約750万円未満世帯</td> <td>193,200</td> <td>118,800</td> </tr> </tbody> </table> <p>・授業料 99,000円 (対象は年収約750万円未満世帯) ○年収約250万円から約350万円未満世帯の補助単価の増</p>	区 分 (年収は4人世帯目安)	支援額		合 計	就学支援 学費補助	生活保護世帯	420,000	237,600	市町村民税所得割非課税世帯 (年収約250万円未満世帯)	420,000	237,600	年収約250万円から 年収約350万円未満世帯	283,800	178,200	年収約350万円から 年収約500万円未満世帯	214,800	118,800	年収約500万円から 年収約750万円未満世帯	193,200	118,800
区 分 (年収は4人世帯目安)	支援額																								
	合 計	就学支援 学費補助																							
生活保護世帯	420,000	237,600																							
市町村民税所得割非課税世帯 (年収約250万円未満世帯)	420,000	237,600																							
年収約250万円から 年収約350万円未満世帯	283,800	178,200																							
年収約350万円から 年収約500万円未満世帯	214,800	118,800																							
年収約500万円から 年収約750万円未満世帯	193,200	118,800																							
(1) 高等学校等	2,845,242	2,800,989	44,253	101.6																					
(2) 専修学校高等課程	147,054	139,326	7,728	105.5																					
5 私立学校生徒学費 緊急支援事業費	38,605	38,608	△ 3	100.0	保護者の失職や倒産により、家計が急変した生徒等への影響を軽減するため、授業料を軽減した私立高等学校等に対し助成する。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>高等学校等</th> <th>補助額 (円)</th> <th>小中学校 相当世帯</th> <th>補助額 (円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生活保護相当世帯または 年収250万円程度未満世帯</td> <td>118,800</td> <td>生活保護 相当世帯</td> <td>168,000</td> </tr> <tr> <td>年収250万円程度以上 年収750万円程度以下世帯</td> <td>59,400</td> <td>住民税所 得割非課税 一定所得 基準額以下</td> <td>149,000</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>90,000</td> </tr> </tbody> </table>	高等学校等	補助額 (円)	小中学校 相当世帯	補助額 (円)	生活保護相当世帯または 年収250万円程度未満世帯	118,800	生活保護 相当世帯	168,000	年収250万円程度以上 年収750万円程度以下世帯	59,400	住民税所 得割非課税 一定所得 基準額以下	149,000				90,000				
高等学校等	補助額 (円)	小中学校 相当世帯	補助額 (円)																						
生活保護相当世帯または 年収250万円程度未満世帯	118,800	生活保護 相当世帯	168,000																						
年収250万円程度以上 年収750万円程度以下世帯	59,400	住民税所 得割非課税 一定所得 基準額以下	149,000																						
			90,000																						
6 被災幼児児童生徒 就学支援補助金	29,998	0	29,998	皆増	東日本大震災により被災した幼児児童生徒の授業料等免除措置を行った私立学校の設置者に対し、補助を行う。																				
7 私立学校振興資金 利子補給費	5,402	3,619	1,783	149.3	教育環境の充実、災害時の安全確保を図るため、施設整備に対しその資金の融資あっせんを行うとともに利子の一部を補給する。 ・補助率 1.0% (償還期間10年以内) 1.2% (償還期間10年超) ・補給期間 10年間																				
8 私立学校施設耐震 診断調査費補助	34,887	33,400	1,487	104.5	児童生徒等の安全確保及び災害時の避難施設としての公共性の観点から、耐震診断調査を実施する私立学校に対し助成する。 ・補助限度額 高3,400千円、 小中1,800千円、 幼1,000千円、 専各1,400千円 ・補助率 2/3以内																				
9 私立学校教職員 退職金制度補助金	845,965	839,048	6,917	100.8	教職員の福利厚生を充実するため、退職手当金給付財源の一部を助成する。 ・補助率 県 18/1000																				
(1) 小・中・高等学校	494,368	493,632	736	100.1	・補助率 県 13/1000																				
(2) 幼稚園	291,250	284,961	6,289	102.2	・補助率 県 17/1000																				
(3) 専修・各種学校	60,347	60,455	△ 108	99.8																					
10 日本私立学校振興 共済事業団補助金	590,470	584,619	5,851	101.0	教職員の福利厚生を充実するため、私学共済の長期給付財源の一部を助成する。 ・補助率 県 8/1000																				
11 私学団体助成費	6,200	6,200	0	100.0	中学高等学校協会他4私学団体の研修事業費等に助成する。 ・研修事業 (いじめ薬乱除く) 4,440千円 ・いじめ暴力、薬物乱用防止研修 1,060千円 ・教育連携事業への支援 600千円 ・幼稚園連合会ブロック会議 100千円																				
12 公私立学校 協調事業費	1,425	1,525	△ 100	93.4	公私立高等学校による協調事業を実施する。 ・神奈川の高校展事業 1,200千円 ・公私教員研修事業 225千円																				
13 私立幼稚園 施設設備等補助	0	674,000	△ 674,000	皆減	私立幼稚園の教育・保育環境の向上等のための施設整備に助成する。																				
14 その他	199,480	13,981	185,499	1,426.8	・私立学校審議会費ほか																				
合 計	61,429,532	60,617,190	812,342	101.3																					

## 特集

## 魅力ある「研修事業Ⅰ」そして「研修事業Ⅱ」を目指して

## 研修事業Ⅰ

私学保連の「規約」の第二章「目的」の第3条の3には、「会員相互の親睦を深めるとともに、教育に対する理解を高め、これを発展させる」とあります。その年度年度の役員の方々は、この研修事業を大切にしてきました。実際に、これまで様々な企画がなされ、より多くの方々に参加していただきたく研修場所、研修テーマ等を考えてきました。

「研修事業Ⅰ」は、原則として外部の研修場所を求め、私学保護者会交流会との共催でこれまでも「高校や大学見学ツアー」や「芸術文化に触れる研修」、または、「各種施設見学」等々、ここ数年では、横須賀米軍基地視察、横浜キャッツシアター等を企画してきました。

また、「研修事業Ⅱ」では、講演会を主に計画し、テーマを青少年の健全育成や人権・同和、さらにはその時々社会的テーマを内容に講演会を企画してきました。今後も「出来る限りの多くの学校、そして多くの会員の方々の参加」を目指し、より魅力ある研修事業を企画できればと思っております。

今回は、今年度実施の研修会を「特集」として編集しました。振り返りながら今後の研修への関心を深めていただければと思っております。

(事務局)

## JAXA研修ツアーを終えて

〈二度は行ってみよう！宇宙航空研究開発機構JAXA相模原キャンパス〉

神奈川県私学保護者会交流会 代表 石田 隆

平成23年11月18日(金)午前9時に横浜駅西口を出発し、途中淵野辺駅での参加者と合流し、総勢79名は相模原ふれあい科学館へ向かいました。科学館では全長40mの水槽もあり、相模川の流域に住む植物や魚の生態などが流れにあわせて立体的に紹介されています。見学後はホテルでランチをとり、今回ツアーのメイン研修先である相模原市の宇宙航空研究開発機構JAXA相模原キャンパスへ。

## ●JAXA相模原キャンパス見学

キャンパスへバスがゲイトインすると右手には2基の大型ロケットが設置されておりバス内で早くも歓声！期待は膨らみます。バスを降り館内に入場。事前にJAXAキャンパスの事務局に希望していたキャンパス案内の二人が紹介され、参加者は二班に分かれ見学が開始。最初の各衛星探査機の見学では丁寧な説明もあり徐々に宇宙へと引き込まれていきます。

実物と同じはやぶさ(模型ではない)があるブースの説明では、はやぶさに秘められた最新の素材や科学技術の説明がされ、多くの困難を克服し「奇跡の生還」を果たした感動の話では、この日一番の大きなどよめきと拍手が起りました。次に別室

で映像による宇宙に関する学習なども体験いたしました。

後半の別棟見学では厳重な品質管理のもつと惑星探査機などのパーツの組み立て作業の様子などを大きなガラス越しに拝見し、質問タイムもいただき、予定していた見学プログラムは全て終了。締めくくりとして屋外にて世界最大級の能力を持った固体燃料ロケットの前で記念集合写真の撮影。帰り際にはキャンパス内の売店で宇宙食や記念グッズを購入。あわただしい帰路となりましたが、車中では和気藹々と学校の枠を超えた意見交換がなされ再会を誓いながら約午後5時半に横浜駅西口にて解散をいたしました。

相模原キャンパスでは、展示物の見学、ナビゲイトそして映像等により、想像以上に進歩している日本における宇宙科学技術レベルの高さを実感できると共に、参加者は口頃には気にかけない宇宙の壮大さや計り知れぬ謎の世界を創造し、未来への希望や原点回帰などを考える有意義な時間を持つことができたのではないのでしょうか。またJAXAでの業務や様々な役割がなされていることを知ることができたのも大きな収穫となりました。



## ●JAXA古川聡宇宙飛行士無事帰還(嬉しいニュース)

今回の研修ツアーでの感動が覚めやらぬ4日後、ソユーズ無事帰還という宇宙関連の大変嬉しいニュースが飛び込んでまいりました。帰還された古川宇宙飛行士は、神奈川県私学の栄光学園の卒業生とのこと。(\*光栄なこと)古川宇宙飛行士は、私の卒業した小学校(中区にある市立間門小)の同窓生でもありました。これからも日本中に「夢や希望」を与えていただければ幸いです。古川氏の多方面な活躍を心よりお祈り致します。

## ●一言

相模原キャンパスには、「未来をになう子供たちに一度は行っていただきたい」場所です。このことは帰りの車中での意見交換でも話題となりました。科学に興味あるお子さんだけでなく多くのお子さんに、人

として大切なもの、夢、創造力など宇宙を通して多角的に育んでくれるJAXA相模原キャンパスへ是非とも足を運んでいただきたく思いました。

私も企画する恒例の親睦研修ツアー事業は、神奈川県私立保護者連合会との共催事業として行われております。今年度も各学校の代表の皆様には多数ご参加いただき、誠にありがとうございました。次年度も有意義で魅力ある企画を準備する予定です。その節はお気軽に参加下さいませようお願い致します。

最後に、研修ツアーの無事終了にあたり、共催いただいた私立保護者連合会、神奈川県私立中高協会の事務局の皆様並びにご指導を賜りました宇宙航空研究開発機構の八田先生そして関係者の皆様へ深く感謝申し上げます。

## 平成23年度 私学振興全国大会に参加して

理事 金子晃久  
(高木学園女子高等学校PTA会長)

どんよりした曇り空がこの冬一番の冷え込みを一層厳しく感じさせ、予定より早めに来たことに後悔の念を思い浮かべる程の寒い午後でした。全国から日比谷公会堂前に集まり始めた方々が挨拶を交わす声には、誰もが寒さを労う言葉を付け加えていました。

予定時刻が近づくにつれて増え続ける人の賑わいは、先ほどまでの寒さも忘れさせてくれます。会場内は今年から都道府県毎に座席が決められているため、空席を求めて彷徨う人の姿もなく無事定刻に大会は始まりました。

### ★研修ツアーを終えての感想

帰りのバス内では、参加者皆様より研修ツアーの感想を伺いました。貴重な感想は次にまとめさせていただきます。

#### ●JAXA見学感想

1. JAXAには、なかなか個人で行けないので今回参加できてよかった。
2. はやぶさは一年ほど前にニュースになったが実際に見ることができてよかった。
3. 宇宙には夢があり楽しく話や説明を聞けて理解が深まった。
4. 帰宅したら子どもに伝え是非とも見学させたい。理系の子どもには是非見学させたい。※子どもは誰でも必見…。
5. 衛星の部品組み立ての見学もできて有意義だった。
6. 説明者がはやぶさに実際にかかわった方で具体的に常識を超えた話しをわかりやすく話され、親近感もありよかった。

### ●相模川ふれあい科学館の感想

1. 相模川の生態が、上流から下流まで40mの水槽などでわかりやすく学べた。
2. 地域の魚類や甲殻類などの小動物の生態がわかりよかった。
3. 今話題のドジョウも見る事ができた。

#### ●その他の感想

1. 昨年、今年と参加しているが今年もよかった。来年も参加したい。
2. 年齢が高くても今回の研修のようであれば参加しやすい。
3. 今回は天候に左右されない場所であった。
4. 次回も楽しみにしている。例えば飛行場等の工場見学、国会議事堂、観劇、芸術鑑賞他
5. 神奈川県でもまだ知らないところがあるのでは！
6. 朝早いのは大変：（今回は午前9：00出発ですが…）

### ★はやぶさ豆知識

月より遠方の星に着陸した探査機が地球に帰還したのは史上初！「はやぶさ」の約7年にもおよぶ旅に関して世界各国のメディアは、「困難を克服して精度の高い帰還や、これまで未解決とされていた幾つかの宇宙の謎が解けるであろう」などの報道がなされ、その生還と成果や偉業を称賛した。

アメリカの科学雑誌「サイエンス」は、12月23日発売の最新号で、2011年の科学分野における10大成果を発表した。この10大成果の第2位に、小惑星探査機「はやぶさ」の成果が選ばれた。「イトカワ」から持ち帰った微粒子は各大学で成分の分析がされ、これまでに微粒子の太陽風による変色などが見つかり、地上から観測した小惑星の色と、予想される星の組成が矛盾する長年の謎が解けたことなどの成果を優れた業績と認め発表した。

## 第2回いじめ・暴力行為対策協議会に参加して

理事 深沼昭彦  
(横浜清風高等学校PTA常任顧問)

昨年に続き、本年もこの会議に出席させて頂きました。昨年は、弁護士の方より人権についての講演でした。今回は、県職員より「神奈川県の人権・同和施策」についての講演が開かれました。

講演に先立ち、全国人権・同和教育研究大会・鹿児島大会に参加された捜真女学校、横山茂理事長より大会内容についてのご報告を頂きました。その中で色々な事案の当事者の方々のエピソードがあり私はその内容に胸が熱くなりました。人権侵害、出身地での差別がいまだに残っているという事がショックでした。

今年も引き続き参加させて頂けたらと思います。

県職員の講演では横浜市民の意識調査



研修事業Ⅱ

防災講演会

講師 国崎信江 先生  
(危機管理教育研究所)

親子共々生きなければ！！

私は阪神淡路大震災をきっかけとして防災対策を進めてきました。この17年間の実践・対策を伝えて皆様の防災対策の一助となればと思っています。私自身は上大岡で生まれ育ちました。3年前までは上大岡を離れたことがありませんでした。外の世界も見てみたいこともありませんでした。阪神淡路大震災のすさまじさをTVの映像で知り、また自分が防災に対して全く知識がないことを反省して、こんな無防備の状態ではないかと防災の研究を進めてきました。仕事だからできたのではなく、やってきたことが仕事につながっただけです。私が出来たことは皆さんにもできるといって話をきいていただければ幸いです。

●政府の特別機関のひとつに地震調査研究推進本部があります。その政策委員の一人です。防災に関して無名の主婦が10年経って国の機関で委員を務めるまでになったことは奇跡的なことと言われていますが、改めてこの地震本部が国民の皆様に発していることをお伝えします。(地図を指す)これは今後30年以内にわが国で起こりうる地震を評価しているものです。M(マグニチュード)7クラスを大地震、M8以上を巨大地震と定義します。今回の東日本大地震はM9.0でしたが、それを表現する定義を持ち合わせていません。なぜならわが国ではM9.0は起きないと考えられていたからです。一部週刊誌で超巨大地震と表現されてきました。わが国では30年以内に大地震、巨大地震、超巨大地震がこれだけの数想定されていることを知ってくださった。私は科学の力を信じていますので皆様にも是非同じように考えていただきたいのですが、これらの地震は起こるかもしれないのではなく、30年以内に必ず起きると思っていただけではないと思います。M7程度の地震からM9以上の

超巨大地震まで神奈川県、横浜に影響する地震が2つや3つあることがわかります。

●私は東北大地震のおよそ1か月前の2月6日に岩手県大船渡市で防災講演会を行いました。略

それから一ヶ月後に実際に起きて、大船渡市の市街地は壊滅状態。気になって気になって3日目に横浜を発って4日目に現地に入りました。支援活動しながら約一ヶ月後、その時聴講していた方は全員無事なことがわかりました。そのときの多くの方が「あのとき話を聞いていなければどうなっていたかわからない」と言っていました。できればこれからの話を聞いて、地震に対して生き抜いて欲しいと思います。今回3つの地震が発生しました。これらの領域は東海、東南海、南海の震源領域とヒタリ一致します。この情報もすでに古くなっていますが、東海地震が87%、88%の確率に上がり、それだけの地震が連動した場合、M9が起きてもおかしくないと考えるわけです。略

●次に東日本大地震の3連動でM9.0なら、5連動となった場合どれだけのエネルギーが放出されるのか実は私たちが解っていません。まだ研究途上で全容が解明されるまでに時間がかかり、それまでに来ることが予想されます。心構えとして過去の被災者が経験したこともない領域に入っているという覚悟を持って頂きたい。間違はなく次の被災者は皆様です。確率的に言って皆様です。しかし、あれから1年経ちますが、報道各社の独自の調査から、「防災意識が低下し始めた」という報告を受けましたが、驚きですね。そんな悠長なことを言っている場合ではなく、これから皆様にとって本番です。あのとき感じた緊張感をどうか持続させて頂いて、あれ以上の地震が起きるといって、よ

り二層の対策を講じて欲しいと思います。首都直下地震、東海・東南海・南海地震以外に、今回の地震の影響でたとえば三陸沖の海溝よりの地震がとりに残されています。ここが破壊されてもおかしくないのに残っていることがやっかいなところですね。これから30年間超巨大地震に見舞われます。防災に関心があろうとなかろうと、必ずすべてやって来ます。自然災害の激動の時代に入っているのです。略

●さかのほりですが1992年9月に神奈川県、横浜では大地震に見舞われましたが、たかだかといっは表現が適切ではありませんが大地震のクラスです。巨大地震、超巨大地震でもないカテゴリーで10万人の死者が出ました。たかだかこの大地震クラスで壊滅的な被害が起きる都会が、大震災に対して脆弱であることを示しました。関東大震災は2連動でした。まず小田原直下で地震が起き、その10〜15秒後に三浦半島直下で発生しました。具体的な地名で言うと藤沢あたりといわれています。震源から離れた東京では2つの地震を1つと捉えていた人も多かった。この本震の3分後にはM7クラスつまり阪神淡路大地震、更に1分半後にM7クラスの大余震が再び発生し、断続的に5分間の激震が襲いました。ちなみに阪神淡路大地震の揺れは、14〜15分といわれています。たかがそれだけの間に高速道路がなぎ倒されるような被害があったわけですね。略

●皆さんにうかがいますがM7〜9クラスが神奈川県を襲ったときに関東大震災ほどの被害にならないと思う人はありますか。それとも90年前寺田寅彦が言ったように「都市が進化すればまた災害も進化する」と考えれば今のほうがもっと被害が大きくなる。どちらだと思えますか。(今の方が大きくなるが多数)私もそう思います。

人口が爆発的に増え、高層住宅、車の台数等を考えれば大変なことになるのではないのでしょうか。当時、原子力施設はなく、京浜コンビナートもこんなに発達していません。どれをとっても相当な被害になることを知って頂きたい。改めて阪神淡路大震災から17年になります。皆様には都市型災害が最も参考になると思っています。これから阪神淡路大震災のVTRを見て頂きたいと思えます。土木、建築の専門家があのときのビルや高速道路がどう破壊されたかの過程をリアルに再現してあります。ちょっと映画チックに見えるところもあるかもしれませんが大げさではないんです。VTRいかがでしたか。阪神淡路大地震ではこの様な被害になった訳です。15秒の揺れの被害です。関東大震災ではこれが5分続いたのです。こういうことが首都圏で起きると、都市機能がこの様な状態になってしまつ時に、皆様が行っている防災対策にギャップはないでしょうか。いつまで非常持ち出しにこだわっているのでしょうか。備えのギャップはないだろうか気になって頂きたい。講演会でそのギャップが少しずつ埋められればとおもっています。略

一見安全そうにみえるオフィス、職員室もそうですが、一台のプリンターを固定してないだけで、机をなぎ倒し壁をも突き破っています。60kgあるプリンターの固定をしてくださいます。今まで物が倒れたらそこに留まっていると思っ

ている方が多かったと思いますが、家具は走り滑ります。机の下にもぐる、ことが安全ではなく、いろんな物が走ってくる、そんなものに当たったら致命傷です。寝る部屋には物を置かないことを徹底してください。キッチンですが特に90kgの冷蔵庫ですが、扉が収納スペースになって

いますので、扉が開いてしまつと重心がかわり



ます。固定の必要があります。とにかく揺れたら行動することをしていただきたい。略

我が家では子どもが2歳のときからこれを徹底しました。何をしてもすく動く。頭で考えるより先に体が反応するよう習慣付けてきました。自分が考えた安全な場所に避難させます。決して親の考えを押し付けません。子どももそれぞれ感覚で動くようにしています。学校でも大人がその姿を見せなければ子どもは動かないんです。略

防災頭巾からヘルメットへの切り替えを進めなければなりません。文化庁も地震防災研究をふまえた待避行動に関する作業部会報告書をまとめています。この中で防災頭巾は一切削除、ヘルメットに切り替わっています。学校で切り替わっていないなら早急にヘルメットを用意して欲しいと思います。家庭でも、一人一個ずつです。略

家にある全てのもが凶器になります。食器棚には飛散防止フィルムが張ってあり、滑り止めシートを敷いて、引き出しにはストッパーをつけています。冷蔵庫の扉にもストッパーをつけています。ガラスや陶器の食器はことん排除、金を出して凶器を増やすことはないという考えからです。略

●最後になりますが私は子どものために絶対に

生き残ろうと思っています。震災孤児に会って改めて自分の命に代えてでも、子どもの命を守りたい。そんなことについてはためて親子共々生きなければ、子どもの後の生き方が変わってしまう。親を失った時点で環境が変わります。子どもを守るには親が生きていかなければならない。そのため17年間一生懸命やってきました。

一方で横浜で、東京で仕事をしていて生き残ることは非常に難しいことも私は知っています。親が死ぬことも子どもにも伝えていきます。家のローン、学習保険、学資、貯蓄、生命保険、後見人、銀行、権利書などについてです。想定外を想定して万一に備えています。これらが役立つように意地でも生きようと思っています。私は横浜で被災する覚悟をしています。皆様も被害の実態と対策を是非改めて考えていただきたいと思っています。

防災教育の



## 大切にしたいこと

理事 玉園 篤俊

(平塚学園高等学校校父母の会会長)

私学保護の理事になって、早7年が経過しようとしています。平塚学園父母の会会長として、私学保護に向向している訳ですが、学校内の活動とは全く違う広範囲の諸活動に、私学保護が関わっていることに大きな驚きを感じています。県内において、組織され実践されている数多くの教育・社会活動に各理事が担当を決めて、参加しています。私は、いじめ・暴力行為問題対策協議会・神奈川県エイズ対策推進協議会を担当しています。両協議会で話

し合われる内容は、大変今目的であると同様に、奥深いものです。これまで協議会に参加して思うことは、我々が悩んだり、困ったり、苦しんだり、悲しんだり、怒ったりした時、そんな自分を静かに見守ってくれる存在を意識できることが大変貴重なことだということ、又自分自身が身近な存在に対し、そういう静かな温かなまなざしを注ごうとしているかということの問いかけを忘れないことも更に重要だということ。我々は、私学協会の先生方の活動に少しでもお役に立ちたいと考え、活動させて頂いている訳ですが、おかげで、多くの出会いや、経験を重ねさせて頂く結果となっていることに大変感謝している次第です。

重要性、学校との連携を考えていただきたいと思っています。略

## 〈質疑応答〉

Q 鎌倉駅にいて大地震が起きたらどうへ逃げたらいいか。

A 津波情報は時間が出るから、余裕があればより高いところへ。なければ近くの高いビルへ。

Q 娘が電車通学をしている。自宅から学校までの地図を毎日持たせている。途中で地震に逢ったらその場で生き抜く方法を考えろといっている。他にいいアドバイスがあれば教えて欲しい。

A 親子で話し合っていることは素晴らしいことです。持ち物として携帯トイレ、ペンライト、アルミブランケットなど用意されたらいいと思います。

Q 地盤の強さはどこで調べればいいのか。

A 市で出している「ゆれやすさマップ」には地盤情報が出ています。国土地理院の「地質マップ」に事細かに出ています。直接建築家の方に情報を聞いてもいい。ボーリングデータを持っている。昭和56年以前の建物は無料です。民間NPOで無料でやってくれるところもあります。

## 未曾有の災害で考えたこと

監事 腰山 浩子

(武相中学・高等学校後援会元会長)

一年を振り返って思った事は、東日本大震災という未曾有の災害によって、被災された方々の痛みを見聞きし、生活に対する価値観が変わったこと。これまでの消費生活を振り返ってお金の価値をよく考えるようになり、不必要なものを買わなくなった。

環境や社会貢献を意識した商品を買いたい。エシカル消費も拡大している。被災地の産品を買えばお金が地域で回り、確実に支援に繋がる。夜間照明や窓ガラスにフィルムを貼って、

## 〈講演会・感想〉

理事 平山 圭子

(横浜富士見丘学園中等教育学校PTA副会長)

最近、心なしか地震に関係するニュースが多く報道されているように感じます。講演会に参加された保護者の方々の感想をご紹介します。

・「次の被災者はどこにいるあなた方です」という強烈なメッセージから、私たちの置かれている状況が、如何に切迫した状態であるかが分りました。

・「もしかしら来る」ではなく「確実に来る」巨大地震に備えて、防災意識を新たに。家族を守るために何が出来るか、生活を見直そうと思いました。

・学校の先生方にもこのお話を聞いていただきたいと思いました。防災頭巾も落下物によっては頭を守ることができない、という実験映像も拝見しました。地震発生時、生徒たちが自身の安全をどのように確保するか、学校でも再確認する必要があります。

巨大地震では、食料云々の前に、揺れた時の身の安全の確保が第一、との事でした。いまま巨大地震が起きたら？いまま自宅、学校で、職場で、外出先で、揺れた瞬間どう行動したらより安全か、大人も子供も、一人ひとりが考えておく必要があるのではないだろうか。

室温を下げる等、工夫と協力で節電も可能です。昭和の暮らしがモデルでしょうか。慎ましく節約しながらも子供にはきちんと教育を受けさせろ。お金をかけなくても家族で集まって話をしたり、本を読んだり楽しめるものはたくさんある。どのように暮らすか大切なことをよく考え、お金の時間を使い方にメリハリをつけるよう次世代を担う子供達と共に考えていきたいと思う。

被災された方々にとってはまだまだ復興に時間がかかるでしょうが社会全体で支えていかなければいけない問題だと思えます。近々首都直下型地震も懸念されている中、私達も防災に対する備えが必要です。

## 一年間を振り返って

# 守ろうね！自転車に乗るときのルール

神奈川県警察

## 自転車安全利用五則

### ① 自転車は車道が原則 歩道は例外※



● 自転車は「(軽)車両」です。車道を通行しましょう。

※「自転車及び歩行者専用」の標識がある歩道は自転車で通行することができます。



### ② 車道は左側を通行



● 車道の左側を通行し、右後ろからくる車にも注意しましょう。

### ④ 安全ルールを守る

■ 飲酒運転・二人乗り・並進の禁止



■ 夜間はライトを点灯



● ライトのほか、自転車の側面に反射材をつけましょう。

### ③ 歩道は歩行者優先で 車道寄りを徐行



● 歩道を通行するときは、歩行者の通行を妨げないようにしましょう。

### ⑤ 子どもはヘルメットを着用



● 子どもが自転車に乗るときや、子どもを補助いす等に同乗させるときは、安全確保のために保護者が積極的にヘルメットを着用させましょう。

■ 交差点での信号遵守・安全確認



● 交差点では必ず一時停止をし、車両の有無や動きをしっかり確認しましょう。

## 自転車が歩道を通るとき

自転車は次の場合は歩道を通ることができます。

- 「普通自転車の歩道通行」の標識があるとき
- 13歳未満の幼児・児童
- 70歳以上の方
- 身体の不自由な方
- 車道又は交通の状況に照らしてやむを得ないと認められる場合



(H20.6.1 施行)

路面上に  とペイントされているときはその部分を、指定されていないときは車道寄りを通行しましょう。

### ポイント

歩行者の通行を妨げてはいけません。他人を思いやる気持ちを持って乗りましょう。

## 自転車運転中の携帯電話、イヤホン等の使用が禁止されます!!

神奈川県道路交通法施行細則 一部改正 (平成23年5月1日施行)

### 携帯電話等...

注意力を欠いたり、ハンドル・ブレーキ操作などの安定性を損なうおそれがあります。

### イヤホン等...

注意力を欠いたり、周りの音や声が聞こえず、安全運転に支障をきたすおそれがあります。

5万円以下の罰金

## 事故をおこすとこんな責任も...

### 【事例】

高校生のA君は歩道を自転車で走っていたところ、信号待ちしていた歩行者Bさんに衝突、Bさんは転倒して重傷を負い後遺症が残ってしまいました。



A君は、Bさんに対して約1,800万円の賠償金を支払うことが裁判により決まりました。

自転車も乗れば車の仲間です。ルールを守り、安全に乗りましょう!

## 主な諸行事出席状況

- ◆ 10月27日(木) 飲酒運転を撲滅しよう!! 県民大会 (腰山監事)
- ◆ 11月10日(木)・19日(土) 社会環境健全化推進街頭キャンペーン (原・平山理事)
- ◆ 12月2日(金) 私学振興全国大会(日比谷公会堂) (理事全員)
- ◆ 1月16日(月) 神奈川県青少年社会環境健全化推進会議 第1回企画委員会(平山理事)
- ◆ 1月31日(火) 神奈川県交通安全対策協議会総会(腰山監事)
- ◆ 2月2日(木) 禁煙・分煙活動を推進する神奈川県会議(山岸理事)
- ◆ 2月3日(金) 神奈川県交通安全教育推進会議(金子理事)
- ◆ 2月21日(火) 第2回いじめ・暴力行為問題対策協議会(市川会長 佐藤・玉園副会長 深沼理事)
- ◆ 3月9日(金) 第3回いじめ・暴力行為問題対策協議会(市川会長 佐藤・玉園副会長 深沼理事)

## 私学保連諸行事予定

- ◆ 5月15日(火) 平成23年度 会計監査 最終理事会
- ◆ 5月25日(金) 平成24年度 総会 特別演奏会
- ◆ 7月16日(月) 2012 神奈川県全私学(中・高)展 パシフィコ横浜展示ホールC・D

神奈川県私立中学高等学校案内 ホームページ <http://www.phsk.or.jp>

● 内容 学校情報・入試情報・英文情報

■ 発行者 『神奈川県私学保護者会連合会』 〒221-0833 横浜市神奈川区高島7番地5 神奈川県私学会館内 ☎045(321)1901  
 ■ 印刷所 『有限会社 イソノ』 〒235-0016 横浜市磯子区磯子3-10-4 ☎045(753)2549